

特別史跡多賀城南門等復元整備事業の進捗状況 及び南門建設現場見学会資料

令和3年5月
多賀城市教育委員会

特別史跡多賀城南門等復元整備事業の進捗状況(1)

1 木工事進捗状況

(1) 令和2年度工事

木工事／二重頭貫^{にじゅうかしらぬき}までの組立完了

瓦工事／瓦の試作品の製作

(2) 令和3年度工事

木工事／二重屋根組立

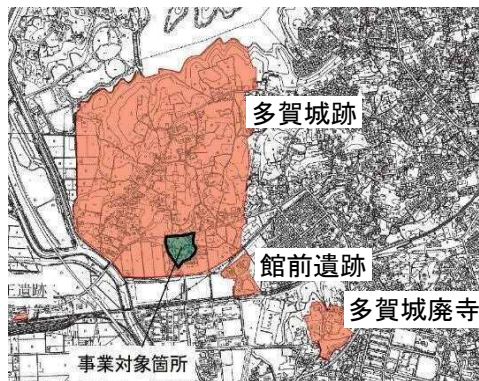
瓦工事／焼き上げ、納品

(3) 令和4年度

木工事／初重扉^{しよじゅうとびら}、二重欄干^{らんかん}等の建具工事

瓦工事／瓦葺き

左官・塗装工事／漆喰^{しっくい}塗、丹土^{にっち}上塗り等



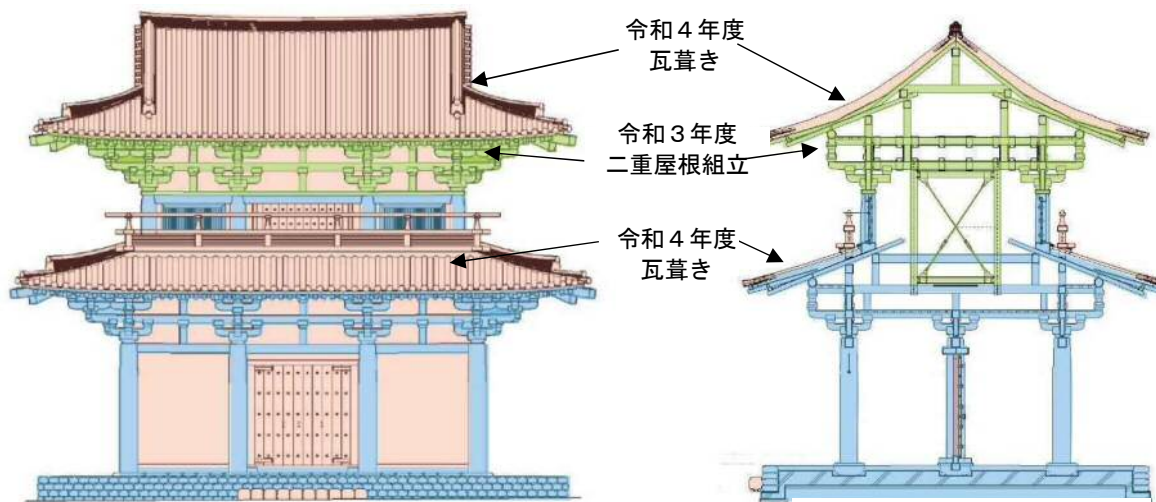
多賀城南門工事箇所



多賀城南門パース

2 年度別木工事範囲

- 令和4年度
- 令和2年度から継続
- 平成31年度から令和2年度まで



立面図（南から）

断面図（東から）

特別史跡多賀城南門等復元整備事業の進捗状況(2)

1 木工事写真



にじゅうかしらぬき
二重頭貫までの組立完了



れんじまど
二重柱・頭貫と連子窓

2 制作中の瓦写真



のきまるがわら
軒丸瓦の型取り



のきひらがわら
瓦の試作品(左：軒平瓦 右：軒丸瓦)

特別史跡多賀城南門等復元整備事業のスケジュール

1 工事進捗状況

完了

継続

令和3年度実施

令和4年度以降

	平成30年度	平成31(令和元)年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
南門復元工事							
実施設計							
木工事			二重頭貫組立完了	二重屋根組立	●建具工事		
瓦製造・瓦葺き				●瓦納品	●瓦葺き		
左官・塗装工事							
築地塀復元工事							
実施設計			用土調査・試験	構造・実施設計計算			
建設工事					版築・屋根組み・瓦葺き		
地形修景工事							
実施設計		造成設計	修景設計	委員会等協議			
造成工事				南門工事と調整を図り段階的に実施			
修景工事							
ガイダンス施設建設工事							
実施設計			実施設計継続				
建築工事							
展示工事							
政庁北端部地区整備工事							
発掘調査(研究所)			発掘調査継続				
実施設計							
整備工事							
事業の進捗率(事業費ベース)		約30%					

供
用
開
始

特別史跡多賀城南門建設現場見学会の概要(1)

1 見学概要

	対象者	見学日	見学箇所	見学方法
(1)	市民 (市民の方を優先とします)	6月19日(土) 6月26日(土) 予備日／7月3日(土)	初重(1層部) 【見学箇所図①】	見学自由 (パネル掲示)
			二重(2層部) 【見学箇所図②】	新型コロナウイルス感染拡大防止 及び荷重制限を考慮し、 人数制限を行う場合があります。 解説／音声ガイド (説明員配置予定)
(2)	一般	7月17日(土) 8月21日(土) 予備日／8月28日(土)	初重(1層部) 【見学箇所図①】	(1)の初重と同じ
			二重(2層部) 【見学箇所図②】	(1)の二重と同じ
(3)	その他の者	学校関係・各種団体・市職員、各報道機関等は別途調整		

※上記見学会参加者の状況等により、見学会を9月に追加開催する場合があります。

2 見学要件

- (1) 小学生以下は保護者同伴
- (2) 事前の申込不要
- (3) 三密を避けた人数で実施

3 見学時間等

- (1) 午前10時から正午まで、午後1時30分から午後4時まで
・南門前に受付場所を設置
- (2) 荒天等の場合は延期・中止(HPで周知)

4 服装等

- (1) 肌の露出が少なく、動きやすい服装
- (2) スニーカー等、歩きやすい靴
- (3) ヘルメット着用(貸与)

5 コロナウイルス感染防止対策

- (1) マスク着用の徹底
- (2) 見学者名簿記載
- (3) 見学導線上に立ち位置等の表示
- (4) 検温・手指消毒等

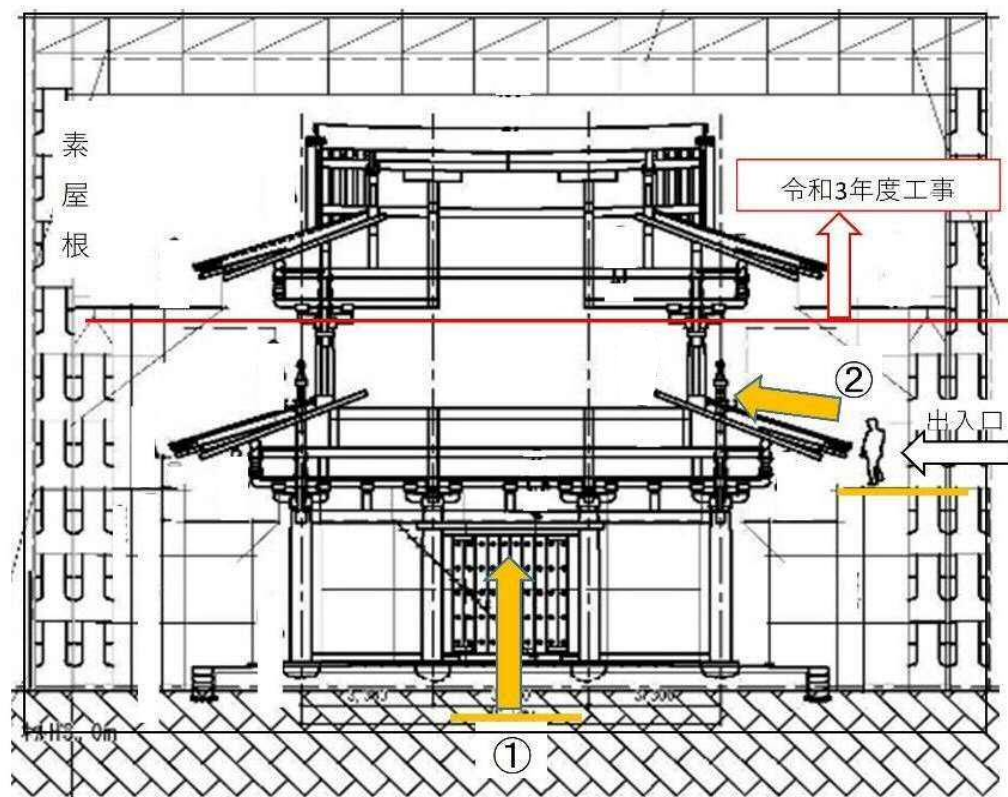
6 周知方法

- (1) 市広報紙掲載(7・8月号にも掲載予定・QRコード有)
- (2) ホームページやSNS(LINE、Facebook)で発信
- (3) 県内各報道機関等への周知

特別史跡多賀城南門建設現場見学会の概要(2)

1 見学箇所図

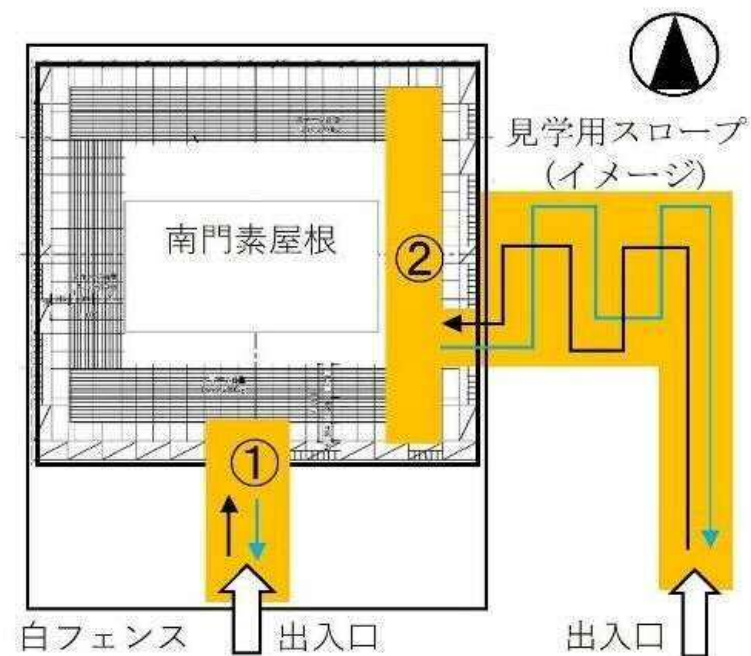
(南からのイメージ)



- ① 初重(1層部)見学箇所
- ② 二重(2層部)見学箇所

のきひらがわら のきまるがわら
※ 軒平瓦・軒丸瓦の試作品展示

(平面のイメージ)



見学用スロープ概要
素屋根足場2階部分から見学
スロープ傾斜14%
スロープ幅1.5m
転落防止柵設置、屋根なし

現 場 見 学 資 料

特別史跡多賀城南門等復元工事

多賀城市教育委員会事務局文化財課

特別史跡多賀城南門等復元工事 工事概要

1 南門復元概要

最新の発掘調査成果及び古代の建造物に係る復元研究の成果に基づき、遺構を養生する盛土を行い、当時建っていた位置に原寸大で、可能な限り古代の技法により、多賀城の正門であった南門の立体復元を行う。

南門（形式 二重門）

構造規模：木造平屋建て（桁行10.5m 梁行6.6m 最高高さ14.49m）

建築面積169.41㎡ 延床面積69.30㎡

屋根：本瓦葺き 入母屋造

主塗装：丹土塗装

2 工事場所 多賀城市市川字田屋場地内

3 設計・監理 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

4 監督 多賀城市教育委員会事務局文化財課文化財係

5 受注者 松井建設株式会社 東北支店

6 工事概要

【令和2年度未完了範囲】

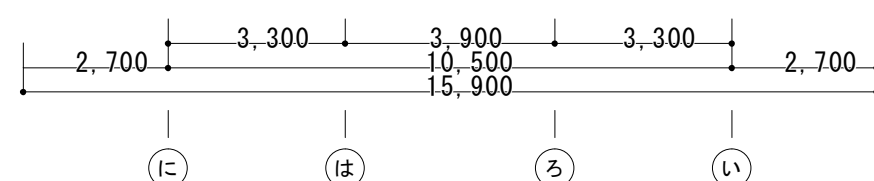
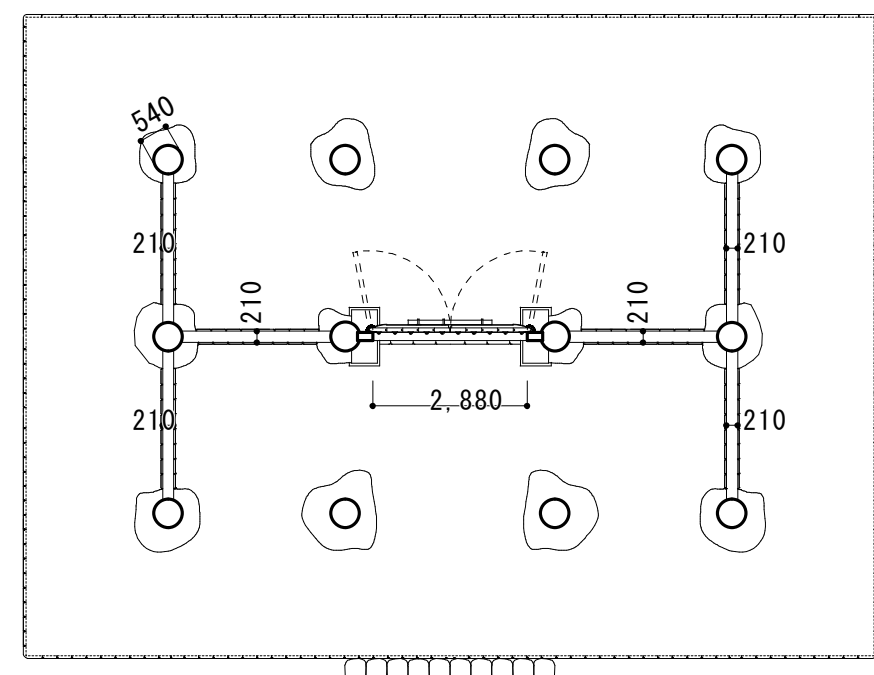
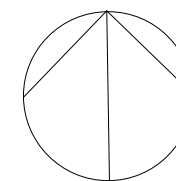
- (1) 基壇工事
- (2) 木工事 初重柱から二重柱・頭貫までの材料調達・加工・組立
- (3) 構造補強工事（一部壁内ステンレス枠組込）
- (4) 石工事（礎石、基壇一部石積）
- (5) 遺構養生盛土（セメント系固化材混合地盤改良含む）
- (6) 塗装工事 丹土塗装下塗り外
- (7) 仮設工事 素屋根 W23.8m×D21.2m×H17.4m
枠組み足場の上、山形単管トラス組梁
波型カラー鉄板葺き 周囲防災シート張り

【令和3年度工事】

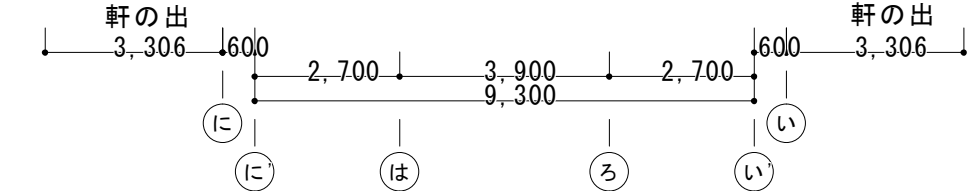
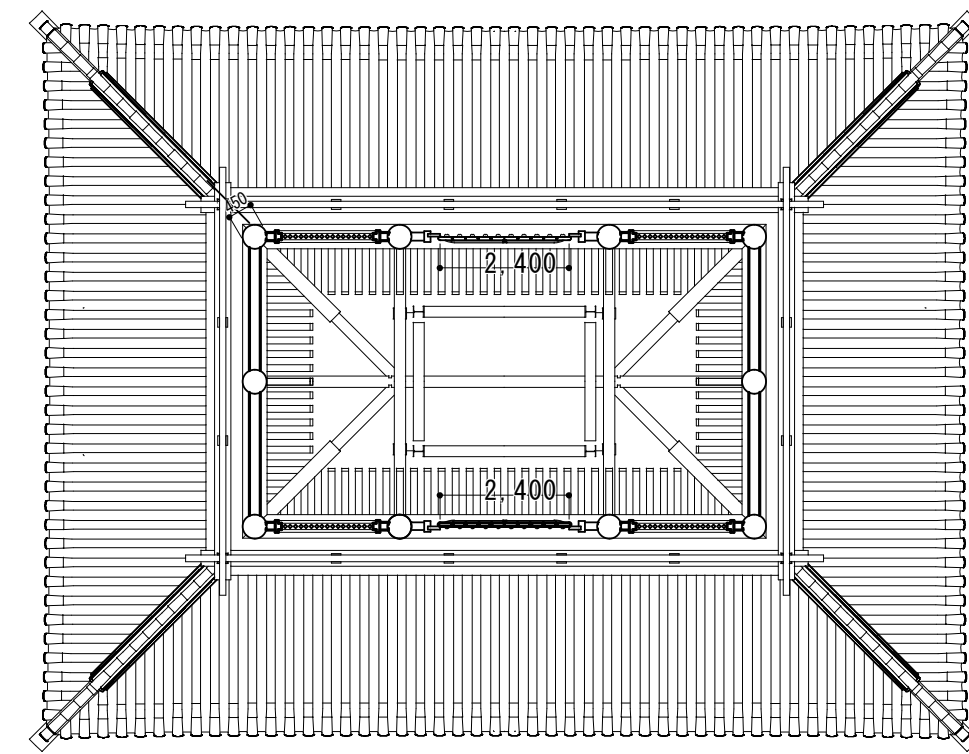
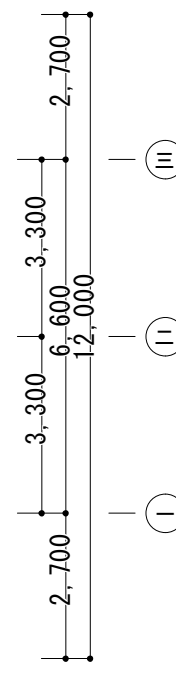
- (1) 木工事 二重台輪から上部構造全て材料調達・加工・組立（高欄、扉除く）
- (2) 構造補強工事
- (3) 石工事（基壇石積）
- (4) 塗装工事（丹土下塗り及び胡粉上塗りまで）

7 工事等契約状況

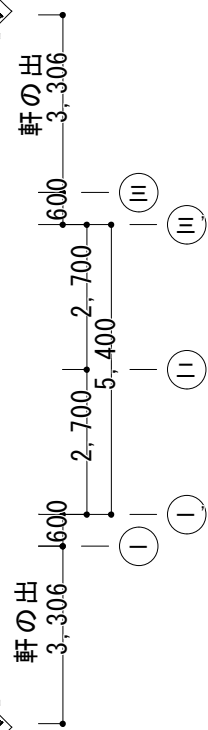
工 事 名 等	業 者 名	金 額	工 期
平成30年度特別史跡多賀城南門等復元工事	松井建設（株） 東北支店	317,680千円	R1.10.16～R3.2.26
平成31年度特別史跡多賀城南門等復元工事	松井建設（株） 東北支店	56,037千円	R2.9.29～R3.3.26
平成31年度特別史跡多賀城南門等復元（塗装）工事	松井建設（株） 東北支店	20,680千円	R2.9.29～R3.2.26
令和2年度南門瓦製造請負業務委託	山本瓦工業（株）	45,650千円	R2.6.2～R3.5.31
令和2年度特別史跡多賀城南門等復元工事	松井建設（株） 東北支店	253,000千円	R3.3.10～R3.5.31



初重平面図



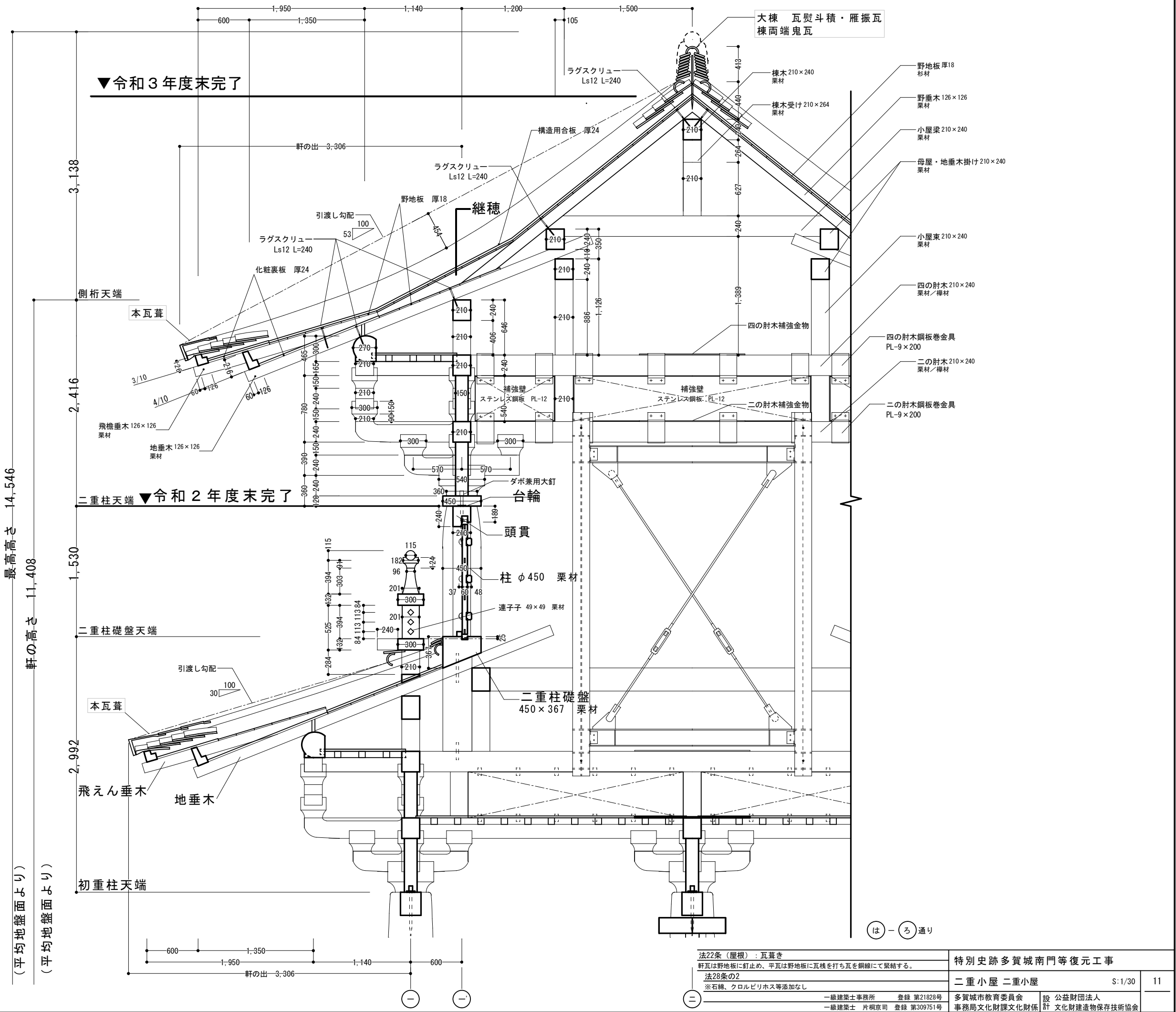
二重平面図



別紙1

特別史跡多賀城南門等復元工事			
初重・二重平面図		S:1/100	04
一級建築士事務所 登録 第21828号	多賀城市教育委員会	設 公益財団法人	
一級建築士 片桐京司 登録 第309751号	事務局文化財課文化財係	計 文化財建造物保存技術協会	

別紙4



法22条（屋根）：瓦葺き		特別史跡多賀城南門等復元工事	
軒瓦は野地板に釘止め、平瓦は野地板に瓦を銅線にて緊結する。			
法28条の2		二重小屋 二重小屋	
※石綿、クロロビリス等添加なし		S: 1/30	
一級建築士事務所 登録 第21828号		多賀城市教育委員会	
一級建築士 片桐京司 登録 第309751号		設計 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会	

多賀城南門復元

多賀城南門の復元

多賀城は陸奥国府であるとともに、古代東北地方に設置された城柵の一つでもあります。中央の政庁（国庁）が築地堀で囲われるのは他の国府と同様ですが、実際の行政施設の範囲も築地堀や材木堀で囲み、二重の区画を設けるような構造は、城柵特有のもので、多賀城が蝦夷対策の最前線であったことを物語っています。

8世紀中頃（政庁Ⅱ期）に多賀城外郭に設けられた南門（多賀城南門）は、東北経営の中心であった多賀城の、まさに入口にあたる重要な施設です。発掘調査で明らかになった平面規模・構造から考えると、二重門形式の極めて格式高い門であったと推測されています。

現在、令和6年（2024）に創建1300年を迎えるにあたり、多賀城の正門でもある多賀城南門の立体的な復元整備事業を実施しています。



多賀城南門復元イメージ

復元する南門は、高さ14mの二重門で、両脇につく高さ4.5mの築地堀も合わせて復元します。多賀城の正門であり、政庁南門よりも大規模であったものと推測されています。丘陵上に突如現れた朱塗りの大規模な門は、蝦夷や北の諸外国の使節団を圧倒するほどの威容を放ったことでしょう。

（お問合せ）

多賀城市教育委員会事務局文化財課
☎022-368-1141（内571）

多賀城市では、多賀城創建1300年にあたる2024年の公開に向け、多賀城南門の復元工事を実施しています。

多賀城跡（昭和41年 特別史跡指定）

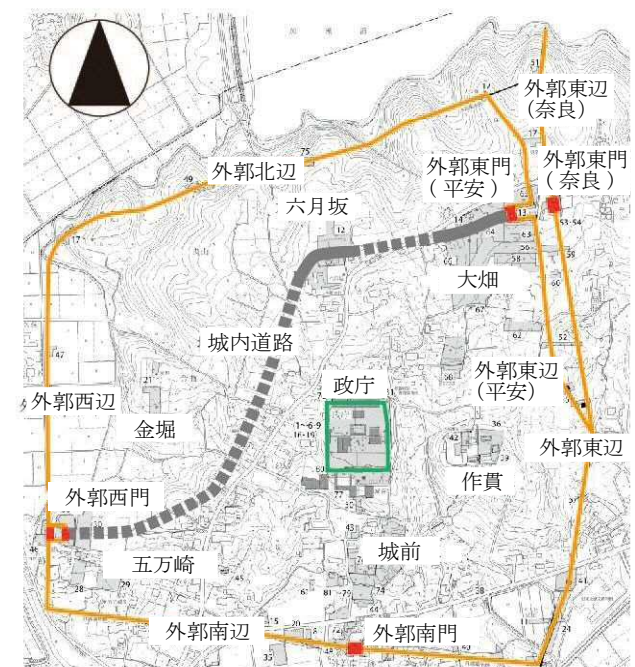
奈良・平安時代に陸奥国府が置かれた城柵跡であり、奈良時代には鎮守府も併せ置かれるなど、東北地方の中心として発展しました。大化の改新後まもなく陸奥国が成立し、現在の仙台市長町に陸奥国府（郡山遺跡）が置かれたことが、養老4年（720）に起った蝦夷の大規模な反乱を機に、多賀城に国府が移転しました。

平成10年に重要文化財に指定された多賀城碑には、多賀城が神亀元年（724）に完成したことが記されています。日本全国に68か所あったとされる国府のなかで、唯一創建年が明らかな国府です。

多賀城跡の規模

多賀城跡は、東辺1050m、南辺870m、西辺660m、北辺780mの範囲（外郭）を築地堀や材木堀で区画し、中央部に南北116m、東西103mの築地堀で囲まれた政庁が位置しています。

政庁と外郭間に点在する緩やかな斜面上には、実際の行政事務を司る場所が6箇所（城前・作貫・大畑・六月坂・金堀・五万崎）確認されているほか、東西方向の城内道路の存在が推測されています。



多賀城跡全体図

城柵：奈良・平安時代に東北地方に造られた施設。政庁だけではなく、その外側にも堀や柵を設け、二重の囲いとしているのが特徴的。

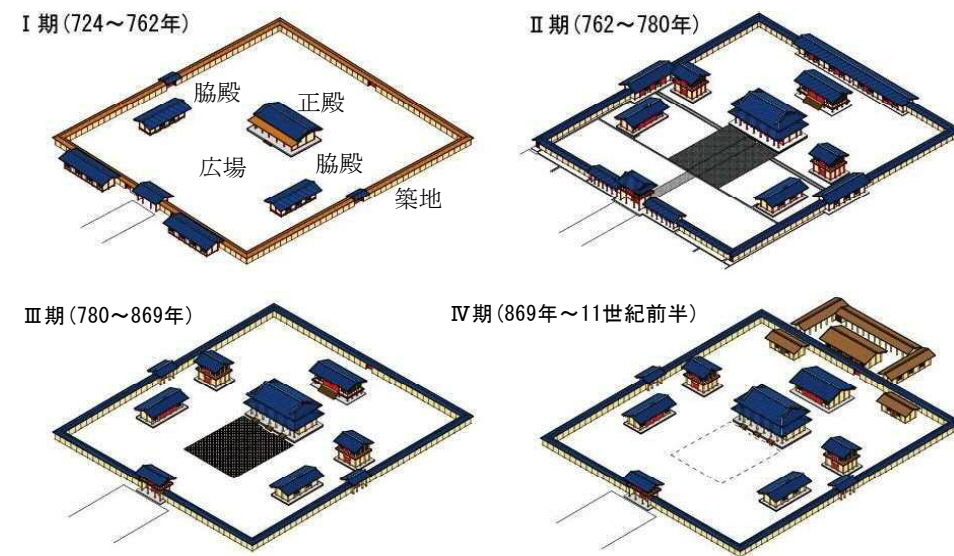
蝦夷：奈良・平安時代の中央政府に属さない人々の総称。

築地堀：土を堅く突き固めながら積み上げる土堀の一種。

材木堀：木材を密に立て並べて造った堀

政庁の役割と変遷

政庁は重要な儀式や政務を執り行う多賀城の中核であり、発掘調査の成果から、大きく3度の改修（Ⅰ→Ⅳ期）があったと捉えられています。内部の基本的な構成要素は東西棟の正殿、南北棟の東西脇殿、広場、南門、築地であり、これに各時期特有の施設が設けられています。



政庁の改修（イメージ）



政庁空撮（南から）

多賀城碑（平成10年 重要文化財指定）

多賀城外郭南門に近接して設けられた石碑であり、多賀城が神亀元年（724）に設置されたこと、天平宝字六年（762）に大規模な改修がおこなわれたことが刻まれています。

文献には全く記録のない内容ですが、多賀城跡の発掘調査成果と一致することが明らかとなり、平成10年6月に重要文化財に指定されました。

多賀城南面のまち並み

多賀城南面には、8世紀末以降、道路網による碁盤目状のまち並みが段階的に整備されていきます。宝亀11年（780）の伊治公咎麻呂乱後の軍事行動に必要な主要道路建設及び河川改修に始まった多賀城南面の整備は、9世紀中頃から後半頃に最も範囲が拡大します。

このような大規模な碁盤目状のまち並みが確認されているのは、都城を除けば福岡県の大宰府や三重県の齋宮などの一部に限られ、陸奥国府の特徴の一つといえるでしょう。



多賀城と南面のまち並み（9世紀後半頃）

多賀城南面には、多賀城に向かって延びる最大幅24mの南北大路と、南北大路と直行する幅12mの東西大路を基準とした、東西1.5km、南北0.8kmのまち並みが造られていました。（イラスト：早川和子）



【多賀城碑の訓読】

多賀城
京を去ること一千五百里
蝦夷の国の界を去ること一百廿里
常陸の国の界を去ること四百十二里
下野の国の界を去ること二百七十四里
鞆の国の界を去ること三千里

西
此の城は、神亀元年、歳は甲子に次る案察使兼鎮守將軍・從四位上 勳四等大野朝臣東人の置く所なり 天平宝字六年歳は壬寅に次る 参議・東海東山節度使 從四位上 仁部省卿兼案察使・鎮守將軍藤原忠美朝臣朝獨 修造するなり

天平宝字六年十二月一日

多賀城碑と碑文（訓読）

外郭南門のすぐ北東側にある奈良時代の石碑です。多賀城の位置や、創建・改修の年が刻まれています。